

動向

中国における中日語彙対照研究の動向 2022

施 暉

新型コロナウイルス感染症が依然として世界的規模で猛威を振るっている昨今、2022年度中国における中日語彙対照研究の動向及び展望について概観する時期を迎えるようになった。本稿は、過去一年間（2021年7月から2022年6月まで）に発表された中日語彙対照研究を収集、その動向について俯瞰的に触れようとする。例年の方法を踏襲して、「日本語」「中日」「日中」などのキーワードを「中国知網」に入力し、全文を範囲として学術論文を検索した。そのうえ、中日語彙対照研究に関する学術論文を10本選出し、研究内容によって、「文法」「翻訳」「意味」「音声」の4種に大別した。また、2021年度の中国政府の研究助成金に採用された研究課題の中には、中日語彙対照に関するテーマが一つもなかった（施暉2021: 181）が、今年度は、中国政府と教育部によって採用された研究課題はそれぞれ2つと1つある。学術論文と研究テーマの詳細は表1のとおりである。さらに、「当当網」「読秀」や「中国国家図書館」などを利用し、2021～2022年に出版された中日語彙対照に関する著書を検索したところ、6冊ヒットした。以下、学術論文と著書に分けて主な研究内容を概説してみたい。

表1 2021～2022年中国における中日語彙対照研究の内訳

類 別	数量	研究内容・テーマ			
		文法	翻訳	意味	音声
学術論文	10	3	2	3	2
国家政府の研究助成金による研究課題	2	日本词汇在中国近现代的异质作用研究（一般項目、責任者：洪仁善） 中国近現代における日本語語彙の果たす異質な役割についての研究			
		日本院政、鎌倉時代変体汉文文献中的中日同源汉字词词义异变研究（一般項目、責任者：張愚） 院政、鎌倉時代の変体漢文における中日同源漢語の意味変化についての研究			
教育部の研究助成金による研究課題	1	语言接触视角下近代中日新动词生成演变与交流研究（一般項目、責任者：楊馳） 言語接触の視点から見た近代中日両言語における新動詞の形成、展開及び交流についての研究			

1. 学術論文

本節では今回収集した学術論文を取り上げて、中日語彙対照研究の主な動向について紹介していきたい。

1.1 文法

陳曦・牛迎春《基于语料库的汉日指示词型话语标记对比研究（コーパスに基づいた談話標識についての中日対照研究）》は、コーパスから“这样”／「この」というような談話標識に関わる例文を手に入れ、談話に現れた位置に準じて、談話標識の機能を考察した。談話の初めに用いられる場合、“这样”／「そんなわけで」は、態度や協議、解釈などの意図を表明する標識と見做されうる。もし、談話の途中に“是这样的”／「そういうこった」を使えば、話し手は聞き手が出した質問あるいは前に述べた見解、意見などに対して解釈を行なうという意味を伝達する。また、談話の終わりに使われた“是这样的（的）”／「それはそうですか」は「ターン終了」を意味する。

蔡嘉昱《不定量数量表达作状语的汉日对比研究——以“少少”“多多”为例（連用修飾語としての不定の数量を表す表現についての中日対照研究——“少少”“多多”を例として）》は、『北京大学漢語語言学研究中心現代漢語語料庫』『現代日本語書き言葉均衡コーパス』から集めた中国語の“多多”“少少”と日本語の「多々」「少々」に関する例文を統語論的な視点から比較、分析を行った。まず、例文の数量からみれば、現代中国語における“少少”の使用頻度は極めて低い。これは日本語における「少々」の高い使用頻度と好対照を成している。また、中国語では“少少”“多多”を補語として使う場合は、物の数量を表すにせよ、動作の頻度、時間などを表すにせよ、「まだやっていない動作」及び「不定の数量」という2つの条件を付けなければならない一方、日本語ではそのような制限は見られないという相違点が明らかになった。さらに、程度を表明する場合、中国語では“多多”の使用頻度が高いのに対し“少少”は殆ど使われないが、日本語となると、その逆で「多々」はまれにしか使われず、「少々」は頻繁に使われることも報告された。

王文斌・王佳敏《汉英日时间表达的空间隐喻系统——以方位时间词为例（中日英三言語における時間表現の空間メタファー——方位時間詞を例として）》という論文は、三言語の辞典及びコーパスから「前・後・上・下」に関する例文を数多く集め、対照分析を行うことによって、三言語が空間メタファーを使って時間を表すうえでの異同点を解き明かした。主な内容は以下のようなものである。第一、「前」は過去、「後」は未来を指す点において三言語は一致し、共通性を見せている。第二、「前・後」と比較すれば、「上・下」のほうが現在を指すことに用いられるが、中国語と日本語は「下」を以て現在を指す反面、英語は「上」のほうを多く使うという相違点を指摘した。さらに、地理、読み書き及び文化という3つの視点から三言語の違いを引き起こした原因をも説明している。

1.2 翻訳

黄小麗他《食品包装用語日译策略分析（食品包装用語の日本語訳のストラ

テジーについての分析)》は、サンプリング調査を実施することによって、中国で販売されている食品包装に使われる日本語の使用状況を調査したところ、文字表記や言葉遣い、文法、語彙の間違い、中国語と日本語の混用、翻訳漏れ、日本語らしくない表現といった多種の間違いが挙げられている。また、サンプリング調査に基づき、食品包装のメッセージを情報型、感情・態度表明型、説得型という3つのタイプに区分し、タイプごとに異なった翻訳ストラテジーを採用すべきであろうと提言している。結果として、まず、情報型のメッセージの翻訳について、消費者の反応を重んじ、簡潔で分かりやすい言葉で原文の意味を伝達するのが肝心である。次は、感情・態度表明型のメッセージを翻訳するに際して、目的語から適切な言葉を選び、商品メーカーの表したい感情と態度を最大限に保ちながら、伝えるのが重要となっている。さらに、説得型メッセージの翻訳ストラテジーとなると、消費者の購買欲をそそるために、訳文は原文にこだわる必要がなく、可読性や流暢性及び目的語らしさに特別な注意を払わなければなるまい。

唐彬《有关日语提示助词「さえ」和汉语焦点副词“都”“也”“甚至”的对应关系考察（日本語のとりたて助詞「さえ」と中国語の焦点化副詞“都”“也”“甚至”の対応関係についての考察）》という論文は、北京日本学研究中心が開発した『中日対訳コーパス』から「さえ」を使った例文を201例抽出し、中国語訳文と対照した結果、極端な場合を提示する日本語の「さえ」は中国語の“都”“也”“甚至”に対応できると指摘した。それに次いで、「自者」（文中の種々な要素）と「他者」（自者に対する他の要素）の視点から考察を進め、「さえ」は中国語の3つの焦点化副詞と以下のように対応すると論じた。「他者」は「自者」の後に現れ、あるいは現れない時に、「さえ」は“都”に対応する。一方、「他者」は「自者」の前に現れると、主観感覚を表明する時、“甚至”だけに翻訳できるが、客観描写の場合、焦点は名詞句であれば、“也”に対応し、動詞句であれば“甚至”に対応すると述べた。

1.3 意味

馮元・張凡《关于汉日同形感情词的对比研究——以“恼”与“惊”为例（中日両言語における同形感情語についての対照研究—“恼”と“惊”を例として—）》という論文は、辞典及びコーパスに対する検索の結果に基づき、品詞、意味、用法といった角度から中日両国言語における“恼”／「恼」と“惊”／「驚」について考察を行ない、以下の異同点が解明された。まず、中国語における“恼”は、古代ではプラス評価とマイナス評価の機能を同時に備えたが、現代になるとプラス評価にだけ用いられるようになった。また、中国語では“恼”を通じて、恨みと怒りを表現することができるが、日本語の「恼」はその使い方を持っていない。一方、「感覚的に刺激を受けて、心が落ち着かない」という意味は日本語の「恼」のみに見られることも明らかにした。

宋睿《「桃」に関する中日言語の意味分析—四字熟語や諺を中心に—》は、『中国成語大辞典』『新明解四字熟語辞典』『中国諺語大全』『故事俗信 ことわざ大辞典』を資料に、「桃」に関する中国語と日本語の四字熟語を取り上げ、両言語における「桃」に対する認識の共通点と相違点を探究した。共通点としては、「春の景色」「美しい女性」「仙境・理想郷」を両言語でともに表すことができるということである。また、桃をスモモと合わせて、「徳のある人」「教え子」などを比喻できるのも両言語の共通点といえる。一方、相違点としては、桃を「恋愛」「青春・若い時代」「他人の代わりに咎めを受ける」に関連づけるのは中国人特有の認識である。これに対して、桃を以て、尻の落ち着かない様子を形容する表現は日本語だけにある。異同点の他に、メタファー、メトニミーなどの認知言語学の理論に依拠しながら、中日両言語における「桃」の意味拡張のメカニズムの解明をも試みた。

楊涵雲他《社会语言学视角下汉日流行语对比研究（社会言語学の視点による中日流行語についての対照研究）》は、社会言語学の立場に立脚し、2015年から2019年までの流行語について、中日対照研究を行なった。両言語の主な異同点について、以下のようにまとめている。まず、語源からいえば、両言語はいずれも外来語の影響を受け、豊富多彩な特徴を持っている。ま

た、流行語には名詞が多く、語構成は簡潔で且つ総合性が強いといった面においても、両言語は共通である。一方、相違点については、第1に、政治と関係のある流行語は両言語にもあるが、中国語ではプラス的な意味合いに傾き、中国人が国家政治に対する「信頼心理」を語っているが、日本語ではマイナス評価に用いられることが多い。中国人と反対に、日本人は国家政治に不審を抱いていることが察知できる。第2に、中国語における流行語の誕生と使用は中国の社会背景と緊密に絡んでいるのに対し、日本語には西洋文化の影響を背景に生まれた流行語が多い。

1.4 音声

柏安安《浅析现代日语汉字词的“促音化”现象——以「水族館」与「洗濯機」为例（現代日本語における漢語の「促音化」への一考察—「水族館」と「洗濯機」を例として—）》という論文は、先行研究を踏まえて、コーパス及びアクセント辞典における「水族館」と「洗濯機」の読み方を調査することで、「促音化」が発生する条件を追究した。「キ」と「ク」の後に「カ」行音が来た漢語の読み方は「促音化」の方向へ発展する趨勢を示すと見解を述べている。なかでも、「促音化」が発生しやすい漢語が具する特徴について、以下のように提示している。①形態素の使い方は独特である、②形態素は単独で使われる頻度が低い、③一つの分割できない言葉として使う。

王侃良《荻生徂徠“汉文训读法”的特征与原因——以“而”与“则”字训读法为例（荻生徂徠「漢文訓読法」の特徴及び原因—「而」と「則」の訓読法を例として—）》は、『和刻本正史南齊書』『和刻本正史梁書』『官刻六論衍義』における「而」と「則」を分析資料として、荻生徂徠の訓読法の特徴などを解説した。荻生徂徠は古注訓読法（漢唐の訓詁を用いる）及び新派訓読法（朱子学の儒学經典に対する解釈を用いる）を同時に使って、2つの訓読法の間に位置するというのが考察の結論である。荻生徂徠が独特な訓読法を採用したのは、彼の漢字分析の方法や漢文創作の理念に起因するとその原因も探究した。

2. 著書

中日語彙対照をテーマとした著書について、例年は2冊程度管見に及んだが、今年度は合計6冊もの著書を収集できた。まず、その中から2冊を取り上げて、主な内容と目次を紹介する。

潘鈞《日语词汇文字论稿（日本語の語彙と文字についての論考）》（光明日報、2022年）は、以下のような目次によって構成されている。

中日同形词词义差异原因浅析

（中日同形語の意味違いの要因に関する分析）

关于中日同形词语法差异的一次考察

（中日同形語の文法的相違点についての一考察）

关于日语汉语词的和化问题——课题与方法

（日本語における漢語の和化について—課題と方法—）

重新认识中日两国语言中的“同形词”问题——谈一下方法和问题之所在

（中日両国語における「同形語」についての再認識—方法と問題についての一考察—）

日语中的“层次”现象及渊源

（日本語における「階層」現象とその出自）

浅谈汉字、汉语词汇对日语的再塑造作用

（日本語の再構築における漢字及び漢語の機能についての考察）

日语中“あて字”的定义和性质问题

（日本語における「あて字」の定義と性質について）

中日两国文字体系的比较——以文字的性质和功能为中心

（中日両言語の文字体系についての比較—文字の性質と機能を中心に—）

日本人汉字观之流变——从使用者、意识、内容和技术诸要素谈起

（日本人の漢字意識の変遷—使用者、意識、内容及び技術などの要素を中心に—）

浅论日语文字系统之特殊性——从文字系统与历史的角度看

（日本語の文字体系の特殊性についての考察—文字体系と歴史の視点

から—)

试论日本汉字的独立性——从历史和现实的角度考察

(日本語における漢字の独自性についての考察—歴史と現実の視点から—)

关于日语汉文训读的本质及定位

(日本の漢文訓読の本質及び位置づけについて)

训读的起源与汉文文化圈的形成——评金文京著《汉文与东亚——训读文化圈》(訓読の起源及び漢文文化圈の形成—金文京著『漢文と東アジア—訓読の文化圏—』をめぐって—)

汉文训读与日语词汇的形成(漢文訓読と日本語語彙の形成)

汉文训读与日语文体的形成(漢文訓読と日本語文体の形成)

为什么是“汉文文化圈”?——试论训读在东亚一体化进程中的作用

(なぜ「漢文文化圏」なのか?—東アジアの一体化における訓読の役割についての—考察—)

试论汉文训读的性质和意义(漢文訓読の本質と意義についての考察)

刊登本书所收论文的期刊论集一覧(本書に収められた論文リスト)

后记(あとがき)

目次が示すように、本書は17本の論文からなっているが、前出の4本は中日同形語を中心に、共通点や相違点に触れたうえで、要因及び研究課題、研究方法などを説明している。続いて、漢字に関する論文が6本収録されているが、日本における漢字の発展、中国語の漢字との相違点、さらに日本人の漢字に関する意識、見方などに言及している。最後の6本の論文では、著者の訓読についての見解を述べている。漢文訓読が中日交流、ひいては東アジアの一体化において大切な役割を果たしたと指摘されている。

次に、白曉光《汉日语限定词对比研究——基于功能语法的视角(中日両言語における限定詞についての対照研究—機能文法の視点から—)》(社会科学文献出版社、2021年)を紹介したいが、その本は7章から構成され、コーパスから例文を数多く収集したうえで、言語類型論、認知言語学、文法化理論といった理論を資料の分析に利用し、しかも中日対照によって、指示詞、

人称詞及び数量詞の使用実態に現れた両言語の異同点を解明しようとしている。目次は以下のとおりである。

第1章 緒論（序論）

第1節 研究的出发点及目的（問題提起と研究の目的）

第2節 限定詞の定義及類別（限定詞の定義及び種類）

第3節 研究方法及相关术语说明（研究方法及び術語の説明）

第4節 框架结构（本論の構成）

第2章 与限定词有关的几组基本概念（限定詞に関する幾つかの基本概念）

第1節 与名词短语相关的几组指称概念（名詞連語形式に関する幾つかの指称概念）

第2節 限定性关系从句与非限定性关系从句（限定的關係従属句と非限定的關係従属句）

第3章 汉日两语中限定词的研究现状（中日両言語における限定詞に関する先行研究）

第1節 日语限定词的研究现状（日本語における限定詞に関する先行研究）

第2節 汉语限定词的研究现状（中国語における限定詞に関する先行研究）

第3節 汉日语限定词对比研究现状（限定詞に関する中日対照研究の現状）

第4節 汉日语限定词研究的薄弱之处（限定詞に関する中日対照研究の不足）

第4章 指示词指示义虚化的个案研究（指示詞の意味虚化についてのケーススタディ）

第1節 日语“この私”的语用功能（「この私」の語用的機能）

第2節 汉语表程度义的“这／那＋VP”构式（中国語における程度を表す“这／那＋VP”）

第5章 限定词共现现象的汉日语对比（限定詞の共起についての中日対

照)

第1节 人称代词与指示代词的共现现象 (人称代名詞と指示代名詞の共起)

第2节 领有成分与指示代词的共现现象 (所有要素と指示代名詞の共起)

第3节 日语中指示词前置于领有成分的名词性短语 (DPN) (日本語の指示詞が所有要素の前に置かれた名詞句 (DPN))

第6章 汉日两语中的“一量名”短语 (中日両言語における「一+量詞+名詞」連語形式)

第1节 汉语无定 NP 主语句研究中的争议 (中国語における不定 NP 主語文の研究についての論争)

第2节 汉语充当主语的“一量名”短语及其日译形式 (中国語における主語としての「一+量詞+名詞」連語形式及び日本語訳)

第7章 结语 (結論)

第1节 主要发现和主要观点 (主な所見と観点)

第2节 本研究存在的不足 (本論の不足点)

参考文献 (参考文献)

他に以下の著書も見られたが、紙幅の関係で、次に主な研究内容だけを簡潔にまとめてみたい。

- (1) 陳雯《惯用语产出与理解的影响因素研究——基于中国日语学习者与日语母语者的对比 (慣用句の産出と理解に関わる諸要因についての研究—日本語学習者と日本語母語話者の比較を通じて—)》(上海交通大学出版社、2022年)

この著書は、日本語の母語話者 (L1話者) と日本語学習者 (L2学習者) の「足を引っ張る」「手を貸す」「面倒を見る」「力を入れる」などの慣用句に対する理解、産出における透明度、親密度、類似度の影響を浮き彫りにした。例えば、2つの実験を行なった結果、親密度及び透明度は L2慣用句産出に影響をもたらすことが解明され、親密度が高くなると慣用句の産出率も高くなることと、透明度の高い慣用句が透明度の低い慣用句より産出しやす

いことも明らかになった。一方、L1慣用句との類似度は学習者の慣用句産出に影響を与えないという結論も指摘した。

- (2) 宋善花《日语汉语与朝鲜语中的称谓词研究（中日韓三言語における人称詞についての研究）》（上海交通大学出版社、2022年）

この著書では、日本語、朝鮮語及び中国語における人称詞の使用実態を調べ、異同点を掘り出したうえで、関連する文化要因を分析した。例えば、三言語の親族内における他称詞のデータ、使い方を分析、考察し、次のような結論を得た。日本語と朝鮮語の親族内で三人称代名詞を使わないのは、中国語とのもっとも顕著な違いと考えられる。また、日本語では相対敬語により「ウチ・ソト」を区別するのに対し、朝鮮語では主に自称詞複数形の連体修飾語で、中国語では主に人称代名詞単数形の連体修飾語で区別しているという相違点にも言及した。

- (3) 李紅《近代科技日语新词创制与汉语借用研究（近代日本語における科学技術新語の創出及び漢語借用についての研究）》（中国科学技術大学出版社、2021年）

近代では、科学技術用語を媒介にした中日両言語の交流は盛んで、漢語を大量に借用したのは、近代日本語の発展に多大な影響を及ぼし、語彙量や語構成といった様々な方面に現れていることを論じた。著者は結論を以下の4点に集約している。第一、科学技術分野の漢語を借用、伝播したことは近代日本語における科学技術用語の発展の助けになった。第二、漢語は抽象的な事象や概念を表すうえで優れた性質を備えていると同時に、造語力が強いことが証明されている。第三、近代日本人は借用した科学技術用語を使うことで、西洋の科学技術を吸収したり、学んだりして、日本の近代化を促進するという役割を果たしていた。第四、両国の語彙交流は一方通行ではなく、還流の形式で行なわれてきたことがわかる。

- (4) 許雪華《基于语料库的中日同形词词性差异研究（コーパスに基づいた中日同形語の品詞上の違いについての研究）》（南京大学出版社、2021年）

コーパスを利用することで、2726個の中日同形語を調査し、それをもと

に、“中日同形詞の名動用法差異（中日同形語における名詞と動詞の使い方の違い）”、“中日同形詞の名形用法差異（中日同形語における名詞と形容詞の使い方の違い）”、“中日同形詞の動形用法差異（中日同形語における動詞と形容詞の使い方の違い）”、“中日同形動詞の及物差異（中日同形動詞の自他性の使い方の違い）”の4章に分けて、品詞という角度から中日両言語における同形語の認定基準及び相違点に迫ろうとしている。

おわりに

紙幅も尽きたので、管見に入った2022年度中日両言語に関する対照研究の最新の研究成果の概説について、ここに筆を擱くこととする。尚、調査、検索の方法によって遺漏したりする優れた論考等も多々あるかと存じるが、割愛させていただくと同時に、御海容のほどお願いいたす次第である。

2022年、中国國務院学位委員会、教育部は《研究生教育学科专业目录（2022）（大学院生教育学科専門目次（2022））》を公布し、「区域国別学（地域別国別の多様な学際的研究）」という一級学科の開設を決定した。今度の学科調整は言語のみならず、歴史、文化及び国際関係など、多分野を横断する学際的な研究が喫緊の課題となり、一層重要視しようとする目的である。それに伴って、中国における日本学研究のバロメーターとも言われる《日语学习与研究》及び《东北亚外语研究》の研究誌においても、中国の日本語研究について改革を行なうべきであると呼びかけている（王昇遠等2021，王忻等2021）。斯様な背景の下で、上記の両雑誌では、これまでのような、言語学または日本語学を主眼とする論考が明らかに減少しているのに対して、学際的な研究が次第に増えるようになっている。そのため、語彙研究に止まることなく、言語学全般にわたる研究成果を公表する場が狭められているという厳しい現状に直面している。従って、これからは如何に言語学を他の研究分野と融合させ、学際的な研究成果を上げていくかということが、一人一人の研究者にとって等閑視してならない、努力すべき課題の一つと思われる。それは現状を打開するための有意義、且つ重要なことであると言ってよ

かろう。また、もう一つの動向に注目を要すべきである。それは学術博士学位の外に、「翻訳博士専門学位」(DTI)を新たに設置するという新たな試みである。つまり、学術性のみならず、研究成果の応用性も同じく評価に値することである。張麒声(2013)は、対照研究を「言語教育のための対照研究」と「言語研究のための対照研究」に区別しているが、2017年から今年まで『日中語彙研究』に掲載された論考をまとめてみれば、中国における中日語彙対照研究は殆ど後者に属するものである。今後、研究成果をどのように日本語教育に活かすか、また、研究成果の応用性を如何に向上させるか、これは語彙研究者が真剣に考えるべき課題であろう。

参考文献

- 白晓光(2021)《汉日语限定词对比研究——基于功能语法的视角》[M], 北京: 社会科学文献出版社.
- 柏安安(2022)《浅析现代日语汉字词的“促音化”现象——以「水族館」与「洗濯機」为例》[J], 《高等日语教育》第9辑, pp. 128-140.
- 陈雯(2022)《惯用语产出与理解的影响因素研究——基于中国日语学习者与日语母语者的对比》[M], 上海: 上海交通大学出版社.
- 陈曦・牛迎春(2022)《基于语料库的汉日指示词型话语标记对比研究》[J], 《汉日语言对比研究论丛》第12辑, pp. 47-60.
- 蔡嘉昱(2022)《不定量数量表达作状语的汉日对比研究——以“少少”“多多”为例》[J], 《汉日语言对比研究论丛》第12辑, pp. 118-138.
- 冯元・张凡(2021)《关于汉日同形感情词的对比研究——以“恼”与“惊”为例》[J], 《高等日语教育》第8辑, pp. 143-153.
- 黄小丽等(2022)《食品包装用语日译策略分析》[J], 《日语学习与研究》第2期, pp. 43-55.
- 李红(2021)《近代科技日语新词创制与汉语借用研究》[M], 合肥: 中国科学技术大学出版社.
- 潘钧(2022)《日语词汇文字论稿》[M], 北京: 光明日报.
- 施暉(2021)「中国における中日語彙対照研究の動向 2021」[J], 『日中語彙研究』第11号, pp. 181-193.
- 宋善花(2022)《日语汉语与朝鲜语中的称谓词研究》[M], 上海: 上海交通大学出版社.
- 宋睿(2021)《「桃」に関する中日言語の意味分析—四字熟語や諺を中心に—》[J], 《日语教育与日本学研究》第10辑, pp. 154-161.
- 唐彬(2022)《有关日语提示助词「さえ」和汉语焦点副词“都”“也”“甚至”的对应关系考察》, 《汉日语言对比研究论丛》第12辑, pp. 84-105.

- 王侃良 (2021) 《获生徂徕“汉文训读法”的特征与原因——以“而”与“则”字训读法为例》[J], 《日语学习与研究》第6期, pp. 39-47.
- 王文斌·王佳敏 (2021) 《汉英日时间表达的空间隐喻系统——以方位时间词为例》[J], 《中国外语》第5期, pp. 45-54.
- 王升远等 (2021) 《中国的日语语言研究: 困境、挑战与前景》[J], 《日语学习与研究》第5期, pp. 1-20.
- 王忻等 (2021) 《中国的日语语言研究何去何从》[J], 《东北亚外语研究》第3期, pp. 41-48.
- 许雪华 (2021) 《基于语料库的中日同形词词性差异研究》[M], 南京: 南京大学出版社.
- 杨涵云等 (2022) 《社会语言学视角下汉日流行语对比研究》[J], 《汉日语言对比研究论丛》第12辑, pp. 106-117.
- 张麟声 (2013) 《关于“服务于寻求语言类型学特征的对比研究”的几点思考》[J], 《汉日语言对比研究论丛》第4辑, pp. 16-26.

施暉 Shi Hui 蘇州大學外國語學院教授 専門: 日本語学・日中言語文化比較